

## 第5回 中札内村景観まちづくり委員会 会議録

日 時 令和5年9月11日（月） 18:30～21:00  
場 所 中札内村役場  
出席委員 金澤和彦、片山祐二、下埜智加、保坂裕子  
欠席委員 飯沼かおり、中田洋介、嶋崎陽介、歌野裕美  
事務局 総務課長補佐 下浦強、総務課主査 竹村幸二、総務課主事 吉田彩乃  
オブザーバー パシフィックコンサルタンツ（PCKK） 宮崎栄一郎、市川基和、原彩菜

### 議 事

#### 1 開 会 18:30

（竹村主査）挨拶

#### 2 会長挨拶

（会 長）今日はパシフィックコンサルタンツの3人が来てくださいました。濃い議論が出来たらいいなと思います。よろしくお願いいたします。

#### 3 報告事項

（竹村主査）景観計画策定に向け、委員会だけで進めるのは難しいため、業務委託することとしたことを前回の委員会でご報告しましたが、その後、6月に3社指名してプレゼンテーションをしてもらいました。その結果、全国的にも力があるパシフィックコンサルタンツをパートナーとして迎えることになりました。斉藤先生のマインドも入った形でスタートを切れます。令和5年度中には村民アンケートとワークショップをしたいと思っています。来年2月には、「日本で最も美しい村」連合の資格委員である河本先生をお招きして講演会をしてもらうことになっています。それでは業務内容と今日の協議事項について、パシフィックコンサルタンツの方から説明をお願いいたします。

#### 4 協議事項

（PCKK 宮崎）景観計画をなぜ作るのか、使って村をどうしていきたいか、どんな人たちとやっていかなきゃいけないかについて、みなさんにご意見等いただきながら作っていきたいと考えております。中札内村さんはずっと景観まちづくり委員会をされてきているということなので、今後ともご指導いただきたいと思います。

#### ー 宮崎 資料1に基づいて報告 ー

（PCKK 宮崎）景観をブランド価値の向上や新たな産業振興につながるようにしていきたいと考えています。例は余市町のワイン振興です。美しいワイン畑を農家の方々が作り、畑に来てもらう取組を行っています。そこで実際にワインを飲みながら地元のものを食べてもらうということを農家さん自身が行っています。中札内村も農地の価値をどのよ

うに上げていくのかをこの中で検討していく必要があると考えています。そうしていくためには色々な人が同じ方向を向かないと良い景観が出来ません。日高山脈があってその前に農地があり、防風林があって農家が点在するのが中札内村のイメージかと思いますが、その景観は農家さんたちと一緒に作っていかなければなりません。それをどう作っていくか明文化をしてルール化するというのが今までと違うところだと思います。実現するための条例を村さんと一緒に作ることになります。条例に従って罰金や指導といったことで担保することもできます。都市部では有効に働く場合があって、建物などを建てる前に相談してもらう仕組みになります。この仕組みをやっていくためには、作っていきたい景観を実現するために必要なルールを作っていく必要があります。そこを一緒に考えていきたいと思っています。日高山脈が国立公園になります。国立公園内に建てられるものは派手なものが出来なくなりますが、それでも自由度が高いです。村さんが景観行政団体になったら、もっと詳しくルールを設定することができます。国道を重要公共施設と位置付けると、こうしてほしいと計画の中に入ることができます。道路を作るときに、村の方に相談が来るようになるので、建物のルールと同じように定めることができます。ただし、ルールを定めるときは道路管理者さんと事前の協議は必要になります。屋根の形を一定のルールを設定したり明文化して制限することができます。公共施設は村が目指す建物景観のモデルになる必要があります。村が作るものに対して自主ルールを作ることができます。表彰制度や景観教育等、取り組みの方針も定めていくこともできます。

PCKK がやっていくこととしては、中札内村にはどんな景観があって、守りたいものがこれだというものを把握したいと考えています。委員会の方々はもちろんですが、村の方々ひとりひとりにもお聞きしたいと思っています。職員タスクフォース、景観まちづくり委員会、そして村民等意識調査でアンケートとワークショップを行うことを想定しております。アンケートは今のところ500部配る予定です。把握したものが、どこにあって、どのような眺めなのか、ということを決めていきます。中札内村の景観要素、景観構成をどこで見られるのかを整理していきます。見られる頻度が高い場所、例えば幹線道路、村民の方が良く使う場所、村外の方が良く来る場所等。景観特性という形で、市街地景観、農地景観、自然景観、最低限3つの大きな固まりでまとめていきます。その固まりを元にしながら、ルールを定めていきます。その区域の分け方についてはこれから検討する必要があります。数値地図が出ているので、どこが農地でどこに森林が残っているかは把握しているので、今後はそれを示しながら特性区分していくかをご相談したいと考えています。ルールの作り方については次年度以降を予定しています。スケジュールについては、特性調査分析は、今行っているところです。これを踏まえてアンケート調査は10月の頭くらいに行いたいと考えています。きょうはその素案についてご意見をいただきたいと思っています。委員会の今回はこのアンケート結果のご報告を行い、この結果を元にどのような景観まちづくりをしていくかをワークショップで確認していきたいと考えています。来年3月に行う委員会では中間報告を行いたいと思っています。ざっとお話ししましたが、不明点等ありましたらいただけたらと思います。

(PCKK 市川) 田んぼがパッチワーク状になっている景色を見ていいなと感じました。車で来る途中も防風林があって田んぼがあって、赤い屋根の建物があって、北海道らしさを感じました。北海道の原風景を残していけたらいいなと思っています。最低限の基準を決めて、どうやったら守っていけるかを時間をかけて話をしていけたらと思います。聞きたい点は、原風景を残すための維持管理等の苦労をお聞きできたらと思います。また良い景観を創っていくために困っていること等、生に感じていることを教えていただけたらと思います。

(会長) 道路上の草を放置している状態だと荒廃した印象を受けます。家の周りは自然豊かなので村道の草刈りをしますが、草刈りして半月経たないうちに元通りになります。非常に労力があるなと思っています。春に電柱を立てなければならなくて、景観に配慮したカラーポールにしましたが、金額が高くなりました。体力やお金に余裕がない人は難しいと思うので、強制はできないと感じました。そういったところに対して、補助制度等があればと思いました。

(委員) 耕地防風林について、所有者である農家さんは60歳ちょっとくらいで代替わりする人が多いです。そうするとカラマツの防風林が切られてしまいます。防風林の効果はそれなりにあるのですが、切ってしまいます。180mほどが一気になくなってしまくと、奥の見たくない景観が見えてきてしまいます。そのことについて若い農家さんと懇談会をしたことがあります。農業の作業効率上、切ってしまうという意見が多かったです。今後、こういったことは多くなってくると思います。視点場が変わってくる可能性が高いです。切っちゃダメというのは難しいと思います。植え替えている人もごく少数いると思うので、その辺を考えていかなければいけないと思います。芽室の方には桜がぽつぽつと植えられている名勝的なところがあり、HPにも掲載されています。

(委員) 今年の冬に防風林保安林の中でモモンガの調査をしました。防風林の中をこどもと一緒に歩いてそういったことも話ができる機会があれば変わってくるのかなと思いました。啓発活動として、景観と生き物、木が大切なんだよという啓発の方法も必要なんじゃないかと思っています。

(会長) 去年、防風林の中を歩くツアーを開催しました。子どもも参加してもらおうと大人の世代にも伝わっていくのではないかと思います。

(委員) 金澤さんの草刈りの話を聞いて思い浮かんだのが、花と緑とアートのまちというキャッチフレーズです。花づくりの部分で、防風林に対して、国道をきれいにみせましようということで、市街地景観の形成のところで花づくりの会の方々が活動していますが、高齢化しています。20人弱で植えたりしていますが、高齢の70歳以上の方々が20kg以上のものを持ったりと、活動が続けることが大変な状況です。欠かせない構成要素の一つだと思うので、続けられるような制度、水やりとか草刈とか、補助でき

るような仕組みが必要だと思います。

(PCKK 原) 日高山脈と防風林と畑の景観について、HP等で視点場の情報がなかなか見つかりませんでした。視点場を教えていただくことはできるのでしょうか。

(委員) 情報は持っていますが、視点場を教えるのは難しいです。オーバーツーリズムの問題等があるからです。

(委員) 仕事柄、写真をネット上にアップしますが、撮影場所はぼかすようにしています。当初は来てもらえるようにという視点であげていましたが、ルールを守らないで畑に入る人もいますので、今は場所が分からないようにしています。

(会長) 逆の意見とすると、昼間、近所に写真を撮っている人がいて、決まったポイントのあたりでいます。写真を撮ってもらえるということは、ゴミ拾いするモチベーションにつながっているので、やりがいを感じているところでもあります。

(PCKK 宮崎) 下埜さんにお聞きします。中札内の景観について気づくことが多いと聞きましたが、外から何を気づかされることが多いのかお聞きしたいです。

(委員) 長く住んでいると当たり前になりつつある中で、六花の森、美術館に行った方から「すごかった」、という素直な感想を聞くとうちの村の誇れる観光スポットなんだなと実感できます。官公庁の関係の方がツーリズムの動画を取りに来ましたが、帰るときに「日高山脈の見える風景は素晴らしい。ここの風景はもっと出すべきだよ」と言われました。もうひとつは札幌からバスツアーでうまいもんめぐりで六花亭や直売所など回った中で行ったアンケートでは、六花亭、豊かな自然、農業、ピョウタンの滝などが、中札内の財産として残して欲しいといった声が聞かれました。

(PCKK 宮崎) 保坂さんにお聞きしたかったのは、札内川に村民の方が触れる機会はあるのか。札内川は村の人との関わり方が薄いのではないのかなと思い、これをきっかけに変えていけたらと思うのですが、いかがでしょうか。

(委員) 札内川はクマが出るので、行って楽しいよって言えないところがあります。サンショウウオの生息地を見る関係で堤防を歩いたりしますが、複数で行っているから行けるのであって、クマを考えると危険で容易にアクセス出来るところではありません。運動公園のあたりは水遊びもしているので大丈夫ではないでしょうか。

(会長) 札内川との触れ合いについては、水辺ではないですが、道道の橋等があります。歩道を歩いて行って、上流の山を見たり、橋から眺める風景が安全に楽しめると思います。フライフィッシングをするのにとっても良い。上流では実際にクマを見たこともあります。札内川ダムにカヤックを持って行きました。堤体に近づかなければ浮かべる

のは自由です。

(PCKK 宮崎) 蛇行する川は札内川の特徴で、流域懇談会や流域治水とか自治体の方々といろいろ話しながら手をかけずに景色を保全していく活動をしています。そういう動きと連動していく方がよいと思います。重要公共施設に札内川を指定できます。

(委 員) プラスで支流も考えてほしいです。

(PCKK 宮崎) 片山さんは、村民の方々に意見を吸い上げてほしいという意向とのことでしたが、懇談会みたいな場でも良いのでしょうか。

(委 員) 積極的に発言してくれる人からはどんな方法でも吸い上げてくれたらと思います。

(PCKK 宮崎) 懇談会には意見を言いたい人が出てくるとはと思いますが、声なき声はどう拾ったらよいと思いますか。

(委 員) アンケートだけでは、濃い意見は取れないので、アンケートは無作為でやって、別でインタビューという形はどうでしょうか。

(PCKK 宮崎) アンケートに「宜しければ連絡先教えてください」と書いて、気になる方に追加でアンケートをするというやり方もあるのでそれが良いのではないのでしょうか。

(会 長) 村内、村外の評価の違いは調べなくて良いのでしょうか。

(PCKK 宮崎) 村外の方の意見を観光協会でのデータで提供いただくことは可能でしょうか。あまり多くの意見を取る必要はないですが、トピックとしてあれば十分かと思います。

(委 員) バスツアーのアンケート結果は 47 人分です。依頼を出してもらえれば提供はできます。

(PCKK 宮崎) ツアーの種類ごとに意見の傾向を探ることができます。オーバーツーリズムがあるので、放っておくのではなくて、能動的に守る取り組みをする必要があると思います。トレードオフの関係を腑に落ちる形でおさめていくのが大事です。最後に金澤さんには、村の他とは違う特性に気づいた点について教えていただきたいです。

(会 長) まず生活文化が違います。開拓の歴史なので、農村地域に残っている行事が素朴です。石碑があって、お参りする神社の祠が点在していて、他の地域も同じ時期に春祭り、秋祭りをやったり、新年会、初詣地域ごとに集まってやっています。結婚式もその前でやったり。私の地域は 13 世帯ですが、そのようなことが地域ごとに行われていて、娯楽でさえも自分たちで作ってきました。小さい規模で連綿と続けられてきてい

ます。小さな集落に大事な空間と時間が残されています。そういう人たちとの交流が深く、半分が村外からの家族ですが、良い関係が成り立っていて、お互い助け合いの意識があります。ウェルカムで開放的な精神風土がすごいと思います。村外からの人も担い手として大切にされているのがすごいと感じ、それも景観だと思っています。ただ、大切だと書くのは簡単ですが、じゃあそれをどうするというのは難しいと思います。

(PCKK 宮崎) 次に、今年度実施するアンケート案を作成したので、みなさんからご意見をいただきたいと思います。

— 宮崎 アンケート案に基づいて説明 —

(委員) 公園は特色のある公園もあるので、提案プラス個人の意見もそれぞれ項目ごとに書いていただけたらと思います。

(PCKK 宮崎) 資源項目は 100 くらいある中から絞りました。一番下に自由記述と書いてあるだけだとわかりにくいということだと思いますので、問の説明文章に「自由記述」について明記する方法もひとつだと思います。また例えば「山岳・河川等」という大きなくりにするなど、考えさせていただきたいと思います。資源項目は非常に数が多いため、景観について聞くのに必須のものはあげていただき、それ以外は自由記述という形にさせていただきたいです。

(会長) 問の文章に「最後の余白のところに書いてください」とすればよいのではないのでしょうか。

(委員) 牧草ロールがあるなら麦稈ロールも並べるのでしょうか。桜六花公園など、村の人でもどこの風景って聞かれることがあります。項目自体は難しいものも含まれていると感じます。

(PCKK 宮崎) ここで上げている景観資源については、指針、ガイドライン、総合計画等、既往の計画の中で景観として大事にしようといわれているものを最初にピックアップしています。

(竹村主査) それプラス、役場の職員に 2 週間かけて聞き取りし、出現率の高いものを抽出して文言を整理しました。

(委員) 中札内には公園がいろいろあって、中央公園とか一本山展望台、ふれあいの森、自然観察公園もあります。

(PCKK 宮崎) 中央公園を追加して、他は自由記述でよいでしょうか。

(委 員) よいです。

(会 長) 公園は代表として、他は類似として推測していいのではないかと思います。

(PCKK 宮崎) その他の景観資源については、ワークショップでも確認させていただきたいと考えています。

(委 員) アンケートを答えるのにいきなり景観と言われても知らない人は答えにくいのではと思うので、入りやすい説明みたいなものを考えたらよいのではないのでしょうか。

(PCKK 宮崎) 分かりました。

(委 員) 居住地区について、市街地をもっと細かく設定できないでしょうか。また、外から来た人と元からいた人の意識の違いも取れたらなと思います。

(PCKK 宮崎) 外から見た意見は、別の方法でと考えていました。

(委 員) 年齢的に変わってきている部分があります。ちょっと不便かな、でも工夫すれば何とでもなるという意識で戻ってきています。高校までは全然気にならなかった部分が見えてきたというのがあります。

(PCKK 市川) 質問を追加し「生まれてずっと中札内か、そうじゃないか」、を聞けばクロス集計で分かると思うので、その方向で検討します。

(PCKK 宮崎) 終わりの時間が迫っているため、その他の質問等については今週中に送っていただけたらと思います。アンケートについてはそろそろ発送の手続きをにらみながら進めていきたいと考えています。全部反映するかは事務局にお任せいただきたいと思います。

## 5 その他

(竹村主査) 連絡になりますが、9月30日にビューティフルデーを予定しています。広報9月号でお知らせしたとおり道の駅及び鉄道記念公園の草取りをしたいと思っているのでお時間あればご参加ください。昨年、11月から美しい村通信で文章を寄せているのでぜひ一読いただけたらと思います。またグループラインの活用についてですが、可能であれば村の写真を撮って、一言と簡単な場所をつけて寄せてもらえれば景観まちづくり委員会のInstagramにアップしていきたいと思っています。定期的にアップしていきたいので送っていただけたらと思います。

閉 会 21:00

### 【要旨】

- ・景観計画策定業務の発注にあたって、3社を指名して選考を行った結果、パシフィックコンサルタンツに業務委託をすることとなった。
- ・計画を作成するにあたって、今年度、村民の意向を把握するためのアンケート調査を実施する。これを受け、さらに詳しく村民の意向を吸い上げるためにワークショップを開催する。それらの結果については、来年3月開催予定の景観まちづくり委員会で報告する。
- ・原風景を残すための課題として、道路上の雑草の刈り取り、農家の世代交代や農業の大規模化により耕地防風林の伐採が進んでいること、沿道の花づくり活動が高齢化等により継続が厳しくなっていることなどが挙げられた。
- ・防風林、日高山脈、畑を景観要素とした視点場の公表については、畑に人が踏み入ってしまう等のオーバーツーリズムから難しい状況であるとの意見が出された。一方で、自分が思い入れを持って手入れしている場所に観光客が写真を撮りに来てくれることがやりがいにもつながっているという意見も出された。
- ・村外の人たちの意見を把握するにあたって、観光協会に、過去に旅行者に行ったアンケート結果のデータ提供を依頼することとなった。
- ・アンケート案について、村民が大切に思う景観資源をもらさず把握するために、自由記述がある旨を問の説明文にも記載する。
- ・アンケート案の居住地区について、市街地をもう少し細かく設定することを検討する。
- ・ずっと中札内村居住なのか、村外から来たのかで意見がどう変わるのかを把握するため、「生まれてずっと中札内村かそうではないか」という旨の設問を追加する。
- ・連絡事項として、9月30日にビューティフルデーを予定。昨年11月から美しい村通信に文章を寄せているので確認してほしい。中札内村の良い景観の写真をSNSに定期的にアップしていく予定。